

公共施設のあり方検討委員会答申後の取り組み状況について

群馬県立館林美術館

1 施設の必要性について

①県立の美術館として2館ある必要性については疑問がある。しかし、2館とも美術館として一定の役割は果たしており、また、館林美術館は、平成13年に開設した新しい施設であることなどから存続とする。ただし、当面2館の運営を継続するとしても、その役割分担や位置づけについて早急に検討するとともに、利用者増加の積極的な努力を強く求めたい。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・「館林美術館運営懇談会」を平成21年5月に設置し、美術館としての役割や館運営の方向性について幅広い観点から助言を求め、地域に根ざした美術館としての今後の役割を検討した（平成21年5月～9月：全4回）。集約した意見等は、「館林美術館の今後のあり方に関する報告書」として提出され、これに基づき利用者増加等具体的な取り組みを実施した。
- ・魅力ある企画展示を実施することで観覧者を増やす努力を行っている。特に、平成23年度の「藤牧義夫展」は多くの支持をいただいた。また、開館10周年記念展「日本近代洋画にみる“自然と人間”」では地元関係者の注目も集め当館の存在が示された。

結 果

入館者数は、平成23年度については東日本大震災の影響もあり前年度を下回ったものの、全般的には増加傾向を維持している。教育普及事業は平成23年度には大幅な増加となった。

- ・入館者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
入 館 者 数 (前年度比)	39,328人 (△4.3%)	41,096人 (+13.5%)	36,221人 (+17.3%)	

- ・教育普及事業参加者数の推移

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
参 加 者 数 (前年度比)	4,755人 (+57.3%)	3,023人 (+1.3%)	2,984人 (+1.9%)	

- ・「藤牧義夫展」(平成23年度)での観覧者数(教育普及事業等を含めない数)

展 覧 会 名	会 期	観覧者数	一日平均
藤 牧 義 夫 展	H23. 7. 16(土)～8. 28(日)【39日間】	11,044人	283人

②近代美術館は県の中心的美術館として、今後とも幅広い役割をより効果的に果たすことが望まれているが、館林美術館は、より地域に密着した形的美術館として、その役割を検討すべきであり、運営についても地域の方々の理解と連携協力により行われるべきである。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・館林美術館友の会や地元企業、団体、商店等との連携を強化している。
特に館林市周辺の商店へはポスター掲示依頼をきめ細かく実施している。また、友の会が運営するミュージアムショップでは地元企業商品の販売、さらにコンサート事業では地元関係者に出演していただくことにより、地域の方々との連携をはかり一層の理解をしていただけるよう努めている。

結 果

- ・大手スーパー全店舗へのポスター掲示や企業団体から展覧会広報への協力が得られた(21年度～)。

協力企業	協力範囲	協力内容
(株)とりせん	60店舗(群馬、栃木、茨城、埼玉)	ポスター掲示
邑楽・館林地区の全金融機関	6金融機関：30店舗	ポスター掲示

- ・ミュージアムショップでの地元関連商品の販売
オリジナル麦落雁(館林市)、袖商品(館林市)、金属製ボールペン(千代田町)、オリジナルストラップ(邑楽町)、ストール等(桐生市)など
- ・友の会主催コンサートでの地元関係出演者
H21度 オータム 能・狂言 中村裕、中村政裕(館林市出身)
H22度 オータム ケーナ R E N(足利市出身)
H23度 10周年記念 アンサンブル 石島敬子、甘楽彰子、関根優子(館林市出身)
H23度 ニューイヤー 二胡 チュネ(館林市出身)
- ・地元企業・団体との連携
アートを通して地球環境を考える「エコ&アート」展の関連展示として、主に東毛地域における企業の先進的な環境関連製品や邑楽館林地域の市民・学校での環境活動を紹介した。
場所：館林美術館エントランスホール
期間：平成21年7月4日～9月23日
企業等(13)、市民活動団体等(5)、学校での環境活動(2)

2 管理運営方法について

①管理運営に多額の経費を要する施設であることから、両館の連携・協力による効率的・効果的な運営や施設全体としての経費削減について、具体的な検討を行う必要がある。また、施設のプラスイメージを生かした新たな歳入確保策についても、具体的な検討を行う必要がある。

○両美術館の共同による研究・展示の実施、展示の巡回や物品等の共同購入などについて検討する。

○近代美術館については、同一敷地内の歴史博物館との事務局統合や群馬の森等との連携・一体化など、管理運営の効率化について検討する。

○ポスター等への企業の広告掲載、企業協賛による事業実施など、歳入確保策について検討する。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・両館所蔵作品の活用では、積極的に協力しあっている。（「岸浪百草居展」「孤高の日本画家展」（平成21年度）、「小室翠雲展」（平成22年度））
- ・平成21、22年度は両館学芸員を兼務とした。当館学芸員が長期の休暇となり、近代美術館からの応援を受けた（平成22年度）。
- ・平成21年度から地元企業等へ当館の講堂・研修室の積極的利用をPRした。
- ・一般財源確保のために、積極的な助成金獲得に努めている。

結果

- ・5館夏休みチラシへの協賛広告の掲載（平成21年度～1枠3万円）：4企業の応募



企業から協賛のあった
5館夏休みチラシ

・講堂・研修室利用状況

<有料>

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
利 用 回 数	4 件	2 件	3 件	
収 入 金 額	25,000円	16,000 円	25,500 円	

<無料>

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
利 用 回 数	6 件	6 件	9 件	

・助成金の実績

年 度	23年度	22年度	21年度
(財)地域創造		2,400,000円	5,000,000円
		りょうもうの美術館名品展	岸浪百草居とその時代
芸術文化振興基金	2,200,000円	2,700,000円	1,600,000円
	自然と人間	つくりかたから見る美術	エコ&アート

②両館ともに優れた景観の中に位置する芸術・文化施設であることから、観光施設としての利用も視野に入れ、新たな利用促進策について検討するなど、県民に親しまれ、多くの県民が訪れる施設運営について検討する必要がある。

○県民に開かれた美術館として、県民ニーズを踏まえた施設の有効活用を検討するとともに、特に、館林美術館については、施設の地域開放について、地域住民や市町村等の意見・要望等をよく聞いて検討する。

○教育施設としての役割も十分踏まえて、学校利用の促進や子供向けのワークショップ、学校への移動教室など教育機能の充実について検討する。

○地域特性を生かした企画展示・巡回展示などについて検討する。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・美術館機能をより発揮させる観点から、現状を分析し、事業評価の手法について県民から幅広い意見を聞くため、平成22年度に「県民の意見を聞く会」を4回開催した。
- ・群馬デスティネーションキャンペーンへの積極的参加を行った。
- ・館林邑楽地域小学生による「夏休み木版画展」を開催した。
- ・平成21年度から、研修室の一般利用や講堂の貸出し制限を緩和を実施した。
- ・平成22、23年度に、東京都の銀座にあるぐんまちゃん家で5館による展示・広報を実施した。
- ・平成23年度に県庁31階観光物産展示室で5館による展示・広報を実施した。
- ・「児童木版画展」、「みんなのアトリエ」、学校授業との連携等、数値目標を定めて実施した（結果は（4 その他）に記載）。平成23年度から教育普及担当として教員を配置した。
- ・平成21年度より別館「彫刻家のアトリエ」では、フランソワ・ポンポンの資料展示（年約4回）を開始し、資料の有効活用をはかるとともに、新たな来館者の獲得とリピーターの増加につとめてきた。



小学生木版画展



みんなのアトリエ



学校連携事業

- ・従前に引き続き、毎年度地域とかかわりの深いテーマや作家の作品展示を行った。

【平成21年度】「館林でつつじの絵を」

「生誕120年 館林に生まれた日本画家・きしなみひやくそうきよ岸浪百草居展」
特別展示「孤高の日本画家」（礒部草丘、四方田草炎、大山魯牛）

【平成22年度】「小室翠雲(1874-1945)展」

「りょうもうの美術館名品展」
特別展示「中平四郎」

【平成23年度】「生誕100年 藤牧義夫展」

- ・平成23年の群馬デスティネーションキャンペーン開催期間を中心に、県立の美術館・博物館を県内外にPRするためラッピングバスを走行させた。
- 高速バスでは、成田空港・東京駅と群馬県とを結ぶ2路線、路線バスでは、主要駅（前橋駅、高崎駅、渋川駅）を含む2路線で半年間運行した。



路線バス



高速バス

- ・国の「ふるさと雇用再生特別基金」を活用し以下の事業を実施した。
- 平成22年度に、県立の美術館・博物館と周辺の観光スポットを結ぶ周遊ルートを紹介するルートマップを作成し、県内外の高速道路のサービスエリア等に配布を行った。
- 平成23年度には、近隣都県から県立の美術館・博物館へより多くの小中学生が教育旅行に訪れていただけるよう、引率者向けのガイドブックを作成し、1都5県の小中学校に配布した。また県立美術館・博物館をPRするため、各館を紹介する動画を作成し、ホームページに掲載している。



群馬の美術館・博物館
ルートマップ



群馬県教育旅行
ガイドブック

結果

- ・周知拡大により旅行者による団体利用

年度	23年度	22年度	21年度	備考
件数	7件	3件	0件	

- ・地元（出身）作家や群馬ゆかりの作家の展覧会における入館者数の状況

展覧会名	会期	入館者数
館林でつつじの絵を	H21. 4. 18(土)～ 6. 21(日)【56日間】	5,999人
岸浪百草居展	H21. 10. 10(土)～11. 23(日)【39日間】	5,668人
特別展示 孤高の日本画家	H21. 12. 12(土)～H22. 3. 31(水)【86日間】	6,041人
小室翠雲展	H22. 4. 24(土)～ 6. 6(日)【38日間】	5,724人
りょうもうの美術館名品展	H22. 9. 18(土)～11. 28(日)【62日間】	15,787人
特別展示 中平四郎	H22. 12. 11(土)～H23. 3. 31(木)【86日間】	6,138人
藤牧義夫展	H23. 7. 16(土)～ 8. 28(日)【39日間】	12,271人

3 管理運営主体について

①館林美術館については、地域に根ざした美術館としての機能をより発揮させる観点から、地元の館林市や市民等の運営への参画、館林市等を指定管理者とする運営形態について検討するとともに、将来的な館林市等への移管・譲渡の可能性を含めて、館林市等とよく話し合いをする必要がある。

②両館とも、ボランティアとの協働による運営をさらに進めるほか、指定管理者制度導入について、他県での導入事例の検証を行うなど、同制度の導入の可能性についても検討する必要がある。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・館林美術館運営懇談会による「館林美術館の今後のあり方に関する報告書」では当面は県直営施設として管理運営を行うとともに、指定管理者の導入は行わないとした。
- ・「みんなのアトリエ」では毎年ボランティアの参加を得ている。
- ・平成22年度に都道府県立の博物館・美術館・文学館等（登録博物館及び博物館相当施設）における指定管理者制度の導入状況について全国調査（130施設）を行い、導入状況の検証を行った。

結 果

- ・「みんなのアトリエ」ボランティア参加者数

年 度	23年度	22年度	21年度	備 考
参加者数(延べ人数)	21人	22人	30人	

- ・全国調査結果（平成22年度）

区 分	直営施設	指定管理者制度導入施設		備 考
		公募	非公募	
調査130施設	98施設 (75.4%)	25施設 (19.2%)	7施設 (5.4%)	

※参考 以下、館林美術館運営懇談会報告書（H21.9.25）における指定管理者関係資料

- 公立の美術館・歴史博物館における指定管理者制度の導入状況（平成19年2月現在）

直営館	457	導 入 館 内 訳	都道府県	25
指定管理者制度導入館	93		市区町村立	68
計	550		計	93

※公立の美術系・歴史系・総合系の博物館で、博物館法の登録博物館・博物館相当施設

- 群馬県での指定管理者制度の導入状況

群馬県では法改正前から管理委託していた施設を中心に、平成18年4月から53施設に指定管理者制度を導入。現在は50施設が指定管理者制度を導入。

なお、2006年度に指定管理制度を導入した足利市美術館は、「長期的な研究や、準備に年月を要する企画展を開く美術館には、短期間で運営主体を見直すこの制度はそぐわない（当時教育総務課長）」として2009年より足利市直営に戻すことを決めた。また、2006年度から制度を導入してきた長野県信濃美術館では、2009年度の公募を

取りやめている。また、北海道伊達市立宮尾登美子文学記念館は、平成17年開館時には観光施設と位置づけ観光協会を指定管理者としていたが、平成20年度より市民のための文化施設に転換し市直営とした。これらの事例から、制度の導入に際しては、美術館・博物館の社会的役割や目的、将来的展望に立ち、それぞれの施設に適した運営をはかる状況となっている。

4 その他

①当面2館の運営を継続するとしても、その管理運営について、徹底した点検と見直しを求めるものであり、今後行う改善等の取組については、一定の年限を区切って、目標を設定して行い、その取組や結果の検証を行う必要がある。

(答申後3年間の取り組み状況)

- ・あり方検討委員会の中間報告書を受け、平成21～23年度の3年間の目標を設定して、利用者増加策や経費節減などに積極的に取り組んだ。

結 果

館林美術館の数値目標については、児童木版画展は目標値を下回ったものの、他の2項目については大幅に目標値を超え、総数ではほぼ目標に近い数値となった。

(目標総数：6,000人 実績総数：5,796人)

また、入館者数については、取組前年度の平成20年度と比較して、平成23年度は8,458人増加して、27.4%の増加となった。

- ・数値目標と実績の推移

項 目		23年度	22年度	21年度
児童木版画展	目標	5,000人	3,400人	1,700人
	実績	3,327人(27校)	3,057人(27校)	3,689人(27校)
みんなのアトリエ	目標	250人	100人	50人
	実績	555人	459人	657人
学校授業との連携	目標	30クラス(750人)	20クラス(500人)	10クラス(250人)
	実績	69クラス(1,914人)	18クラス(571人)	18クラス(403人)

- ・入館者数の推移(平成20年度との比較)

年 度	23年度	22年度	21年度	20年度
入 館 者 数 (前年度比)	39,328人 (△4.3%) 【H20年度比：+27.4%】	41,096人 (+13.5%)	36,221人 (+17.3%)	30,870人 (△7.8%)